

OPEN FACTORY REPORT 2.1

I. 全国の地域一体型オープンファクトリー (2025年3月 追加事例)

KIRYU FOCUS	2
おうめオープンファクトリーレポート	4
ヨヨヨイ!!!	6
はんだオープンファクトリー	8
いばらき、クルクル。	10
せつつキッズファクトリー	12
TOYOOKA OPEN WALK	14
もっぺん	16
来て見てみい、とくしま。	18
諫早工場博	20
日田ものづくり探検隊	22

II. その他 各地の取組について

八王子オープンファクトリー	25
---------------	----

KIRYU FOCUS



CORE VALUE

さあ、桐生に焦点を当てよう！

- EVENT DATA -

開始年 : 2023 年
 開催回数 : 2 回
 開催期間 : 毎年 11～12 月頃
 参加企業 : 13 社 (2024 年)
 来訪者数 : 約 380 人 (2024 年)
 主催 : 桐生商工会議所
 桐生オープンファクトリー事業実行委員会

FEATURES

桐生の街の魅力にフォーカスする

桐生市は古くから織物のまちとして栄え、繊維の産地として知られている。今日でも、最終製品である織物だけでなく整経や縫製、刺繍など、製造工程を担う多くの企業が市内に存在する。また、近年は個性豊かなお店が集まってきており街の魅力となりつつある。そんな日常生活では目に触れにくい工場・工房を主役とし、古くから桐生を盛り上げてきたものづくりにフォーカスすることをコンセプトに、2023年から開催されたオープンファクトリーイベントが「KIRYU FOCUS」だ。

FUTURE

いつでも身近に感じられる桐生を

「KIRYU FOCUS」を実施した結果、これまでオープンファクトリーを実施していなかった企業からも問い合わせが来るなど、取り組みは桐生の方々に認知されてきている。こうした認知度向上の動きを経て、企業規模の違いから参加を遠慮していた小規模事業者にも働き掛けを行い、取り組みの輪を広げていく。

桐生市内には、株式会社笠盛など、「KIRYU FOCUS」の取り組みを始める前から企業単体でオープンファクトリーに取り組む企業もあった。そのようにイベント時だけでなく、随時見学者を受け入れることができる企業を増やし、桐生のもづくりをさらに身近に感じられるようにすることが、今後の目標だ。

●事務局連絡先

桐生オープンファクトリー事業実行委員会 事務局

〒 376-0023 群馬県桐生市錦町3-1-25 桐生商工会議所 総務課内
 TEL 0277-45-1201

INNOVATION

様々なイベントや協力者との連携

桐生市では街を盛り上げるために様々なイベントが開催されている。織物のまち桐生の魅力を伝えるイベント「桐生ファッションウィーク」も、その1つだ。このイベントは1996年から開催されており、元々は繊維製品や工芸品の展示販売が中心だったが、神社でのファッションショーや群馬大学のキャンパスでクラシックカーフェスティバルを開催するなど、常に進化を続けてきた歴史がある。2023年の「KIRYU FOCUS」の初開催は、ものづくりの観点から織都桐生をアピールすべく、織物とファッションとの関連を意識して、桐生ファッションウィークとの同日開催とした。両方のイベントに参加する企業の負担を考慮し、2024年は別日程での開催となったが、両年共に桐生を盛り上げるイベントとして、市内外から多くの参加者を集めた。

また、2023年は群馬大学のフォーミュラチーム「GUFT」と連携したマシン整備の公開、2024年は桐生市出身の工作ライターをゲストに迎え、ものづくりをテーマとした講演会を開催するなど、多様な外部サポーターと協力しながら桐生のもづくりを盛り上げている。

2回のイベント開催を経験する中で参加企業からも地域内外での連携を進めていきたいとの声が上がっており、共同での新商品開発や、工場の相互見学をする案が挙がっているなど、ポジティブな効果が現れ始めている他、イベント当日は服飾関係の学校関係者や学生も来場するなど、今後の新しい関係構築にも期待が高まる。さらに参加した企業から、市外や県外からの来客や反響もあったとの声が上がっているなど、着実にものづくりファンの注目を集めるイベントに成長している。

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



桐生商工会議所副会頭
桐生オープンファクトリー事業 初代実行委員長

KASAHARA YASUTOSHI
笠原 康利 氏

株式会社笠盛 代表取締役会長

1877年に帯の織物業として創業した老舗、(株)笠盛。

長い歴史の中で、染めや編み、独自技術によるレースの開発など、変化し挑戦し続けてきた。現在、事業の中心は刺繍業で、国内外のブランドやメーカーとのものづくりのほか、ファクトリーブランド「000 (トリプル・オー)」を展開する。

笠原氏は、2019年に桐生商工会議所副会頭に就任し、会頭ビジョンの一つである「桐生のまち全体のブランド化」の一環として、オープンファクトリー事業に積極的に取り組んでいる。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

桐生オープンファクトリー事業 実行委員長

朝倉 剛太郎 氏

朝倉染布株式会社 代表取締役社長



桐生オープンファクトリー事業 副実行委員長

小山 哲平 氏

有限会社平賢 代表取締役社長



取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

企画・広報



和崎 拓人 氏
ふふふ代表

デザイン



平本 友里 氏
株式会社桐染

WEB制作

株式会社両毛システムズ

制作・印刷

株式会社アズ

ともにあゆむ

SUPPORTERS

桐生商工会議所
ファッションタウン桐生推進協議会
桐生市産業経済部

実行委員

柳 明彦 氏 (株)ヤナギ
長谷川 博紀 氏 森秀織物(株)
川村 徳佐 氏 川村(株)
岡部 利明 氏 (株)トラストインターナショナル
片倉 洋一 氏 (株)笠盛

参加事業者 (過去2回)

藍工房正田
(有)青柳ノコギリ屋根店
朝倉染布(株)
(株)笠盛
革ひと
桐生和紙
群馬大学学生フォーミュラチーム
絹遊塾 工房風花
サンキンサービス
(株)シントウウギャザー
(株)土田産業
(株)ナガマサ
(株)HANDLER
(有)平賢
三立応用化工(株)桐生工場
(有)ミヤマ全機
森秀織物(株) 織物参考館 “紫”
(有)ワダノブテックス

TRIGGER & STORY

誕生秘話

「KIRYU FOCUS」の構想が持ち上がったのはコロナ禍の時期。当時桐生市では、繊維産業に携わる企業がそれぞれのノウハウを生かして、オリジナルマスクの開発を行った。各企業が個性を発揮したこの取り組みを行う中で、事業者が丸となって桐生を盛り上げ、街のブランド化に繋げる取り組みが必要との声が上がリ、これを実現するためにオープンファクトリーの企画がスタート。桐生商工会議所の副会頭で、株式会社笠盛の代表取締役会長 笠原氏が中心となってイベントの開催を実現した。

TOPICS

桐生のものづくりを表現したメインビジュアル

「KIRYU FOCUS」のメインビジュアルは、様々な企業が織りなす桐生のものづくりを、カラフルなモザイク模様で表現したものになっている。2024年は、パンフレットやフライヤーに加えて、メインビジュアルをあしらった名刺サイズのイベントカードを作成。インパクトのあるビジュアルと配布しやすいサイズで、イベントの周知に一役買うアイテムとなった。





おうめオープンファクトリー



CORE VALUE

青梅だから、“つくる”が“つづく”

- EVENT DATA -

開始年 : 2019年
 開催回数 : 6回
 開催期間 : 毎年11月頃
 参加企業 : 35社 (2024年)
 来訪者数 : 525人 (2024年)
 主催 : おうめオープンファクトリー実行委員会
 青梅商工会議所

FEATURES

青梅の地域経済の復活を目指す新たな挑戦

青梅市は多摩地域北西部に位置し、かつてはハイテク産業の集積地として栄えていたが、近年では大手メーカーの工場が相次いで転出し、地域経済は大きな転換期を迎えている。このような状況を受けて、青梅商工会議所は「青梅のものづくり」を活性化させるための取り組みとして「おうめオープンファクトリー」を立ち上げた。

FUTURE

青梅市の未来を担う取り組み

開催初年度には30社が参加していた青梅オープンファクトリーであったが、2年目は新型コロナウイルスの影響で全面オンラインでの開催となり、参加企業が15社へと大幅に減少した。翌年からオンライン、リアルとのハイブリット開催を試みてきたものの依然としてコロナの影響は大きく、地域内の行事も少なく、家族連れの参加がほとんど見られない状況が続いていた。そこで、実行委員会では集客方法の工夫について協議し、ホームページやチラシの見せ方を改善し、参加者が飽きないような新しい方法を模索している。また、地元高校の進路指導教員を通じて説明会を行い、参加企業へのインターンシップ機会を提供することで、人材確保や地元高校の認知度向上を狙っている。

ものづくりに興味を持つ人々が集まる町を目指している青梅市。常に多様なものづくり企業が切磋琢磨しながら地域の機運を高めていく取り組みを模索し続けている。実行委員の間でも、参加者が飽きないようなイベントの工夫が重要であると話し合われており、他地域とのオープンファクトリーとの交流を通じて、青梅のまちづくりのさらなる進化を追い求めている。

INNOVATION

まちづくりを「目的」から「手段」へ

2022年に開催された4回目のおうめオープンファクトリーでは、これまでの取り組みから発展し、見学者が工場を「見る」だけでなく「参加する」機会が増えた。実行委員長の奈良野氏は、同オープンファクトリーのブランディングを担当している明星大学デザイン学部の萩原教授などのアドバイスによって、見学者を対象としたワークショップの開催に踏み込んだり、取り組みを通じて専門的な知識を持つ見学者との交流が生まれ、今後BtoBやBtoC事業に発展する可能性を感じているという。

さらに実行委員会を担う商工会議所は、地域事業間で各企業の得意分野を生かしたデザイン性の高い地域プロダクトを生み出す構想も進められている。

オープンファクトリーの参加企業や見学者の数を増やすこと以上に、一人一人に丁寧に青梅市の魅力を伝え、伝わるオープンファクトリーの“質”を追求する段階にあると強調している。実際の取り組みとして、見学を完全事前申込み制にし、企業側の負担を考慮する等さまざまな試行を通じて青梅にとって最適な開催方法を見つけ、将来的には地元企業主体で恒例化していきたいと考えている。

このように「おうめオープンファクトリー」は単なるイベントから、地元企業がつながり新たな地域経済の循環を生み出す「手段」としての役割を果たしつつある。

●事務局連絡先

青梅商工会議所

〒198-0081 東京都青梅市上町373-1
 TEL 0428-23-0111

仕掛け人

TREND SETTER

おうめオープンファクトリー実行委員長



NARANO TSUYOSHI

奈良野 剛 氏

株式会社丸芝製作所 代表取締役

おうめオープンファクトリー実行委員長。

1993年より株式会社丸芝製作所の代表取締役に就任。

オープンファクトリーの取組を通じて、地域企業間で個々の得意分野を生かしたデザイン性の高い地域プロダクトを目指し、構想を重ねている。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

COLLEADERS

おうめオープンファクトリー実行委員会

副実行委員長

池田 和弘 氏

株式会社池田製作所 代表取締役



副実行委員長

成澤 崇志 氏

アドフォックス株式会社 代表取締役



取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

萩原 修 氏

明星大学 デザイン学部 教授



瀬戸山 雅彦 氏

グラフィックデザイナー



青梅商工会議所

ともにあゆむ

OTHERS

オープンファクトリー2024 参加企業

小澤酒造株式会社、株式会社MOPTOP、原島計量、Studio fu-mine Copper Works、有限会社ブラム、株式会社池田製作所、藍染工房 壺草苑、ホットマン株式会社、株式会社クボプラ、株式会社丸芝製作所、株式会社アサップシステム、アドフォックス株式会社、株式会社サムライトシャツ、武州工業株式会社、南デザイン株式会社、大和製函、住友金属 鉱山株式会社 青梅事業所、美光印刷株式会社、株式会社立川あん工房、太陽誘電モバイルテクノロジー株式会社、青梅トヨヨー住器株式会社、株式会社インダ技研、野村DS株式会社、有限会社折原精密鋳金、株式会社デントロケミカル、株式会社鬼塚硝子、株式会社指田製作所、株式会社小沢製作所、有限会社ミツ原工芸社、株式会社エイム 青梅事業所、株式会社プラセラム、五十鈴中央株式会社 青梅サービスセンター、井戸鉄建株式会社、株式会社有明電装、株式会社ボーダーライン

TRIGGER & STORY

誕生秘話

現実行委員長の奈良野氏より「なにが製造業を支援してくれる事業はないかな？」とのリクエストをいただき、青梅商工会議所の事業として2019年から開催している。開催準備としてオープンファクトリー先進地の「おおたオープンファクトリー」と「スミファ」、そして「かめまオープンファクトリー」を視察させていただいたことが大きな力となった。

翌2020年からコロナ禍となったが、Zoomを使ったオンライン工場見学として実施し、その後もリアル型・オンライン型両方でオープンファクトリーを継続した。

2021年からは明星大学デザイン学部の萩原修先生にクリエイティブディレクションを、アートディレクションをデザイナーの瀬戸山雅彦氏に担っていただいている。

TOPICS

青梅は木材産業・繊維産業で栄え、そこから製造業が発展した。様々なジャンルのものづくり企業が活躍しており、出展企業も金属機械加工・プラスチック加工・電子機器メーカー・食品製造・自動車整備工場・ハウスメーカー・タオルメーカー・藍染工場・半導体工場など多種多様であり、この多様性こそが青梅の強みである。





ヨヨヨイ!!!



CORE VALUE

信州のものづくりに新たな火をともし

- EVENT DATA -

開始年 : 2024年
 開催回数 : 1回
 開催期間 : 毎年10月頃
 参加企業 : 36社 (2024年)
 来訪者数 : 約500人 (2024年)
 主催 : ヨヨヨイ!!! 実行委員会
 共催 : 木曾漆器祭奈良井宿場祭実行委員会

FEATURES

クラフト産業を未来に繋ぐ『ヨヨヨイ!!!』

長野県塩尻市木曾平沢は、江戸時代を通して中山道唯一の木曾漆器の産地として栄えてきた。

そんな木曾平沢では春と秋に「木曾漆器祭」が開催されている。買い物を楽しむ「春」・工房巡りや体験を通じて産地を楽しむ「秋」と季節と趣きを変えた2つの楽しみが出来る。約50件の店舗や工房が建ち並び、職人の精魂込めた漆器を目にすることができる。

第12回となる令和6年秋の漆器祭には、職人の魂を直に感じ取ってほしいと製造現場にも足を運ぶオープンファクトリー『ヨヨヨイ!!!』が同時開催された。『ヨヨヨイ!!!』には、祭を象徴する合い言葉として、勢いや熱、産地への想いや誇りを感じられるようにと願いを込めており、「ヨヨ」（世世・代代）は多くの世代や長い年月を意味し、「ヨイ」は、ものづくりの未来を良いものにしていくという心意気を表している。

FUTURE

交流がもたらす産地のアップデート

多様な人々との交流は、木曾の産業の新たな気づきになると確信した。初回の開催では、他地域のクラフトマンや学生のボランティアなど多くの人が協力してくれたが、特に若い世代である学生の参加は、企業にとって新鮮なものであり良い刺激になっていた。今後も交流を活性化させ、職人やクラフトマンの制作意欲を高め、新たな価値の創出を期待している。

●事務局連絡先

ヨヨヨイ!!! 実行委員会

〒399-6302 長野県塩尻市大字木曾平沢2272-7
 TEL 0264-34-2113

INNOVATION

木曾のものづくりの未来を拓く交流の力

第1回木曾オープンファクトリー「ヨヨヨイ!!! 一超工芸一」は、第12回秋の木曾漆器祭と同時開催された。漆器市をはじめ、ワークショップやオープンファクトリー、漆工町探索ツアーなど、木曾漆器に触れる多彩なプログラムを用意し、これまでの木曾漆器祭以上に作り手と買い手の距離を縮めることを目指した。

さらに、クラフトマンの創作意欲を高めるため、異業種との交流を積極的に促進した。アンティーク雑貨やガラスアクセサリー製作を行う事業者、竹細工の伝統工芸や、諏訪市の地域ブランド製作団体「SUWAプレミアム」による特別出店の他、富山県で年間10万人以上が来場する鋳物工場、株式会社能作の能作氏による講演・交流会など刺激的な交流の場を創出した。

また、『ヨヨヨイ!!!』の企画、デザイン、プロモーションを担当したMAGMAGIにインターンシップで参加していた学生が関わったことも大きな影響をもたらした。学生による参加企業への取材は、木曾漆器の若い世代向けの魅力を発掘し、SNSでの発信を通じて、従来の木曾漆器祭に来場していた世代とは異なる新たな参加者を呼び込むことに成功した。

オープンファクトリーの開催を契機に、多様な人々との交流が生まれ、木曾地域の産業を新たな人々に知ってもらう機会となった。さらに、伝統工芸とクラフトマンの交流が制作意欲の向上を促し、ひいては新たな産業の創出につながると考えられる。

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



木曾漆器祭奈良井宿場祭実行委員長
ヨヨヨイ!!! 実行委員長

KOBAYASHI HIROYUKI
小林 広幸 氏

木曾漆器工業協同組合 理事長
春野屋漆器工房

塗師屋として器から建築物まで漆塗りを熟す傍ら、個展も開催するなど、多岐にわたり活動する。

木曾漆器工業協同組合理事長として、伝統的工芸品「木曾漆器」とクラフトなどのモノづくりとの融合を目指し、秋の木曾漆器祭に合わせ、オープンファクトリー「ヨヨヨイ!!!」に取り組んだ。伝統的工芸品の産地を知ってもらい、新たなモノづくりの発展に繋がればと期待している。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

COLLEADERS

木曾漆器工業協同組合 副理事長
木曾漆器生産者組合長

山崎 敏男 氏

マルタイ山崎漆器店

伝統工芸士として、木曾漆器の生産に携わり、産地が取り組む文化財修復も熟す。「ヨヨヨイ!!!」ではワークショップの指導に携わる。



木曾漆器工業協同組合 専務理事
木曾漆器祭企画専門部会

荻村 実 氏

株式会社山加荻村漆器店

木曾漆器の企画・製造・販売をする漆器店の代表。

「秋の木曾漆器祭」と「ヨヨヨイ!!!」の企画を担い、交流会の進行や産地探訪のガイドも務める。



取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS



秋の木曾漆器祭事務局

松井 三佳子 氏
塩尻商工会議所
楡川支所長



ヨヨヨイ!!! 実行委員会事務局

太田 洋志 氏
一般社団法人塩尻・木曾地域地場産業振興センター 専務理事

ともにあゆむ

OTHERS

株式会社MAGMAG
アートディレクション、プロモーションを担当

塩尻市商工観光部商工課
運営をサポート

学生ボランティア
㈱MAGMAGでのインターンシップ参加から、伝統工芸に興味のある学生がボランティアとして運営に参加。お客様の案内等を担当。

楡川小中学校
交流会の会場として協力。

TRIGGER & STORY

誕生秘話

木曾漆器を含む国指定の伝統工芸品や県指定の伝統工芸品などモノづくりに関わるクラフトマンが多い長野県。様々な世代のモノづくりに携わるクラフトマンが集っている地域である。しかしながら、どの伝統工芸品を持つ地域でも後継者不足や需要低下の課題を抱えている。

そのような中で、伝統工芸や地域のクラフトマンが持つ作品に対する獨創性を刺激し合える場であり、モノづくりに対する想いを発信できる場をつくろうとした結果、地域一体型オープンファクトリー『ヨヨヨイ!!!』が開催された。

TOPICS

地域の誇りにつなげたい

地元の小中学校では授業で漆塗りの体験をしたり、木の香溢れる開放的なランチルームで木曾漆器の器を使い給食を提供するなど、子どものころから地域のものづくりに触れる機会を作っている。

『ヨヨヨイ!!!』では地域のモノづくりの背景も知って頂くことを目的に、学校の教室ランチルームを活用して、モノづくりの未来を語る講演・交流会を開催した。

このような取組を通じて、地域の宝である子どもにも木曾漆器を誇りに感じてもらえるようこれからも、モノづくりと触れあう機会をつくっていききたい。この取組から将来の担い手がうまれることを期待する。



はんだオープンファクトリー



CORE VALUE

ものづくりを開き 地域の未来を醸し出す

- EVENT DATA -

開始年 : 2023 年
 開催回数 : 2 回
 開催期間 : 毎年 10 月頃
 参加企業 : 29 社 (2024 年)
 来訪者数 : 約 3000 人 (2024 年)
 主催 : はんだオープンファクトリー
 実行委員会

FEATURES

多様な「働く」に出逢えるまち

半田市は古くは醸造と海運で栄えたまちである。江戸時代中期から本格化した醸造業の成長とともに、港湾都市として発展。その後自動車部品メーカーや鉄鋼、航空産業、全国的に注目を集める地域循環型バイオマス発電所、農業など多様な産業が集まる地域へと変貌を遂げた。

産業遺産として保存活用されている「半田赤レンガ建物」は、本格的なドイツビール製造施設として1898年に建設された。当時カブトビールの名称で販売され、東海地方では最大のシェアを誇った。

そんな歴史的建造物「半田赤レンガ建物」をインフォメーション本部として開催されている地域一体型オープンファクトリーが「はんだオープンファクトリー」。第2回は規模も業種も多様な29社が参加し、それぞれの企業による工場見学やワークショップを楽しめるイベントになっている。

来場者は子供連れの家族が多く、「子供に地域の仕事や働く大人の姿を見せてい」若い親世代の共感を生んでいる。

FUTURE

新たな可能性に気づけるコミュニティに

大手企業の協力会社をしている「ものづくり中小企業」が多い同地域では、住民から、地域にどんな会社や仕事があるのか意外に知られていない。また同業種同士の横の繋がりはあれど、異業種同士の繋がりは多くない。

本取組をきっかけに、地域の会社・仕事への関心を高め、将来の半田市でものづくりの担い手として活躍してくれる人材が増えることを期待されている。

また参加各企業の横のつながりを強化し、改善活動等の優良事例の共有や新たな取り組みの創出等お互いに良い影響を生み出せるコミュニティを創り出していくことを目標としている。

INNOVATION

地域の未来を育む新たな挑戦

初開催の際、来場者にアンケートを行ったところ、「このような（地域の企業を直接知ることができる）イベントを待っていた」「子どもに見せておきたいと思った」など大変好評をいただいた。働く人々の日々の仕事や、参加する人からすると非日常であり、大変貴重な体験に感じてもらえると理解でき、主催にあたっての自信となった。また、参加企業にとっても、作業ひとつひとつに「すごい！」などの声をかけてもらったことが、自ら仕事の価値を再認識する機会となり、モチベーション向上となった。

第2回目から次なる取組として、教育委員会も巻き込み、県民の日学校ホリデーを活用したスピノフ企画「はんだオープンファクトリーアカデミー」も開催した。これは当該地域の人口が、今後減少していくことが想定される中で、将来地域で働く担い手を発掘する取組だ。市内の中学生向けに働くということや将来の生き方を考える機会になってほしいと願い、企業の技術を中心に若い世代に伝えるイベントとなっている。

「はんだオープンファクトリー」は、実行委員会を中心に参加各企業、半田商工会議所、半田市、半田市教育委員会が連携し運営がされている。地域の企業や行政にとって、「はんだオープンファクトリー」の実施が、将来世代育成と持続的な事業経営と地域活性のために取り組むべき事と共有されているからである。これも一種のローカルイノベーションといえる。

●事務局連絡先

はんだオープンファクトリー実行委員会

〒475-0874 愛知県半田市銀座本町1丁目1-1 (半田商工会議所内)
 TEL 0569-21-0311

仕掛け人

TREND SETTER



TAKEKURA MIKIO
竹倉 幹雄 氏
半田中央印刷株式会社
代表取締役社長

半田中央印刷株式会社は江戸時代からの紙商に祖をもち明治19年より140年に渡り印刷事業を続ける老舗で、地域に根ざした事業展開を行ってきた。

2017年に代表に就任した竹倉氏は、人口減少が本格化する今こそ、地域の仕事・事業の持続的発展のために、オープンファクトリーを実施しないといけないという使命感から企画を形にした。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

COLLEADERS

はんだオープンファクトリー実行委員会



小柳 厚 氏
半田商工会議所
専務理事



三矢 学 氏
株式会社藤工業所
代表取締役



竹内 寿徳 氏
中部電力
パワーグリッド
株式会社 半田支社
総務G 専任課長



山本 美沙 氏
株式会社鶴弥
総務部長



中山 真人 氏
筒井工業株式会社
製造部リーダー

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

- 半田市市民経済部 産業課
- 半田市教育委員会
- 半田商工会議所
- 半田中央印刷株式会社

ともにあゆむ

OTHERS

参加各企業

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 愛知道路コンセッション株式会社 | 筒井工業株式会社 |
| 有限会社一粒社 | 株式会社鶴弥 |
| 伊東株式会社 | 株式会社ティエムアイコーポレーション |
| ウェルハート農園 | 株式会社デザインセンターオウリヤ |
| 株式会社おとう工所いしかわ | トミタバックス株式会社 |
| 加藤電機株式会社 | 中盤酒造株式会社 |
| 株式会社かめさきカホリン | 日本パーライジング株式会社 愛知工場 |
| 衣浦臨海鉄道株式会社 | 半田中央印刷株式会社 |
| サミット半田パワー株式会社 | ピオくるファクトリー-HANDA |
| 株式会社CAC | ファインテック株式会社 |
| 株式会社シンホリ | 株式会社藤工業所 |
| 株式会社SUBARU | MIZKAN MUSEUM |
| 航空宇宙カンパニー 半田工場 | 名星ダンボール株式会社 |
| 株式会社総本家中屋 | 知多信用金庫 |
| 瀬上工業株式会社 | |
| 中部電力パワーグリッド株式会社 半田支社 | |

TRIGGER & STORY

誕生秘話

仕掛け人である竹倉氏は、以前より他地域のオープンファクトリーに刺激を受け、価値の伝え方の一つの解と考えていた。そんな時に舞い込んできたのが、2018年の半田市における産業観光フォーラムの開催である。

会社としてイベントの運営を受託した竹倉氏は、これをきっかけに半田市も産業観光に対する機運が芽生えるのではないかと、地域一体型オープンファクトリーは、更なる半田市の地域産業アピールを加速させると感じ、半田商工会議所や半田市に提言するところから取組が始まった。

新型コロナウイルスの影響もあったが、2023年に趣旨に共感をいただいた12社により第一回「はんだオープンファクトリー」の開催に至った。

TOPICS

オープンファクトリーが繋ぐ地域の力

「オープンファクトリーの実施により、多様な企業の横の繋がりが強化されつつあると感じる」と竹倉氏は語る。2年目を迎えた「はんだオープンファクトリー」では、実行委員会の形式を採用し、企業・商工会議所・市役所など多様なメンバーが意見を交えることで取り組みの幅が広がった。

「はんだオープンファクトリーアカデミー」も、県民の日学校ホリデーを活用してほしいという市長からの話がきっかけで始まった取組であった。もとより来場者からの反応もよく新たに何か新しい取り組みを考えていた時の話であったため、市長からの提案は取り組みの後押しとなった。

実行委員会制をとったことで今までにないアイデアを発見できた。これからも、交流が産み出す可能性を探究していきたい。



いばらき、クルクル



CORE VALUE

まちをクルクルめぐる
いばらき、参観日

- EVENT DATA -

開始年 : 2024年
 開催回数 : 1回
 開催期間 : 毎年11月頃
 参加企業 : 7社 (2024年)
 来訪者数 : 約200人 (2024年)
 主催 : 茨木市

FEATURES

市内企業の魅力を発掘するオープンカンパニー

茨木市は淀川の北側に位置し、大阪と京都の中間に所在するという立地の良さを背景とした市域南部の市街地と、北部の自然豊かなエリアという特色の異なるエリアを持つ。大阪と京都のベッドタウンというイメージを持たれがちな茨木市だが、まだまだ知られていない企業が多くあり、それらをクルクルとめぐることで新たな発見や刺激を受けてほしいという願いを込めて実施されているのが、「いばらき、クルクル。」だ。茨木市には製造業以外の企業も多いため、サービス業など、様々な業種が参加するオープンカンパニーと銘打ち、各企業の特徴を生かした様々な取り組みを展開している。

FUTURE

さらに多くの企業をクルクルしてもらうために

市広報誌への掲載や学校にフライヤーを配布するなど、広報に注力したこともあり、イベントはリリース直後から注目を受けた。予約の受付開始後、すぐに多くの予約が入り、全ての予約枠が埋まって、急速予約枠を拡大した企業もあった。今後はさらに参加企業を増やし、タイトルの通り、複数の企業や地域をクルクルとめぐる体制を整えていく方針だ。加えて、「参加企業同士で取り組みの見学をしたい」という声が寄せられていることから、相互見学を含めた企業間の交流も増やしていく。

また、茨木市の特徴の1つとして、特色ある教育機関が複数所在していることが挙げられる。産学官金連携の取り組みが盛んで、市内で学ぶ学生も多い。今後は教育機関とも連携することで、学生と企業がマッチングする機会を創出したり、将来のキャリアイメージに繋げてもらうなど、取り組みについて検討を行っている。

INNOVATION

イベント実施を通して得られた様々な繋がり

オープンカンパニーの実施にあたり、参加企業がそれぞれ自社の魅力を改めて認識するためのワークショップを開催。さらに、市外のオープンファクトリー実施企業を見学し、自社の魅力を伝える手法についても見聞を深めた。こうした経験を基に、参加企業各社がそれぞれの魅力を伝え、来場者を楽しんでもらうための取り組みを行った結果、参加企業からは、「来場者の笑顔に触れることができ、達成感があった」という声が寄せられている。イベントに携わった社員からは、コンテンツの改良案や、もっと多くの社員にも経験してほしいという声も上がっているという。

さらに、イベントへの参加をきっかけに出会った企業同士の交流も始まっている他、市外のオープンファクトリー実施企業との交流も実施し、これまでにない刺激を受けている。2024年の実施時には、イベント日までのスケジュールがタイトで、参加企業間で交流する時間が限られていたが、これも次回に向けた改善点と捉え、企業と来場者双方が満足できるオープンカンパニーを目指す。

イベントの実施に先立ち、市役所では近畿経済産業局と、市内にキャンパスを置く立命館大学の協力を得て、「大学とオープンファクトリーの連携」をテーマにしたフォーラムを実施。その後、近畿経済産業局とはオープンファクトリーの観点を含めた産業の成長を目指す連携協定を締結し、市内の産業活性化に向けた取り組みを推進している。

●事務局連絡先

茨木市産業環境部商工労政課

〒567-8505 大阪府茨木市駅前三丁目8番13号
 TEL 072-620-1620

仕掛け人

TREND SETTER



茨木市産業環境部 商工労政課

企業や地域の魅力発信、ひいては茨木市産業の活性化を目指して当イベントを主催。市内産業の状況を俯瞰する市役所の目線を生かして企画を進めつつ、市内企業を精力的に訪問してオープンカンパニーの魅力や効果をプレゼンし、認知度の向上を図った。

イベントを実施した結果、当初目指していた企業の魅力発信だけでなく、企業間の交流やネットワーク構築のきっかけにもなっていることに大きな手応えを感じている。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

LEADERS

いばらきオープンカンパニー準備委員会

実行委員長

高石 秀之 氏
高石工業株式会社

副実行委員長

辰巳 雪絵 氏
辰巳工業株式会社

2024年から、オープンカンパニーの継続と、それに向けた機運醸成の検討を行う準備委員会を発足させており、両氏はその中心メンバーとして多方面に尽力。

また、両氏は2023年のオープンファクトリーにも参加経験があり、新規加入メンバーにとっても心強い存在となっている。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

アドバイザー

森 茂治 氏

マーケティングコンサルタントH・E・A・D

事務局運営

茨木市産業環境部商工労政課
株式会社友安製作所

ともにあゆむ

OTHERS

参加企業

高石工業株式会社
アイシンシロキ株式会社
カリエール茨木
辰巳工業株式会社
橋本食糧工業株式会社
株式会社富士パッキング工業所
株式会社伏見屋

TRIGGER & STORY

誕生秘話

オープンファクトリーが盛り上がっているという情報は、茨木市役所も以前から把握しており、近畿経済産業局の知見を借りながら企画を進め、2023年に試行という形で初開催。小学生以下の子どもと保護者を対象にバスツアーを2コース準備したところ、定員24組に対し、100組以上の応募があった。

この結果は市内でのオープンファクトリーへの注目を高め、2024年実施の際は、他地域で実績を上げている事業者と連携し、事務局の体制を強化して、改めてイベントの方向性を検討。茨木市内には製造業はもちろん、それ以外の業種にも特色ある事業者が数多く存在し、それらにもスポットライトを当てるべく、「オープンカンパニー」として2024年の実施に至った。

TOPICS

北大阪エリアのオープンファクトリーが茨木に集結！

北大阪エリア（北摂地域及び北河内地域）では、不器用FACTORYをはじめ、2023年以降にオープンファクトリーの取り組みが複数スタートしている。実施団体間での交流を深め、北大阪エリアをさらに熱くするため、オープンファクトリー団体事務局（5団体）が一堂に会する交流会を茨木市内で実施。それぞれの取り組みの紹介や課題の共有などを通して知見を深めるとともに、新しいネットワークを構築する機会となった。



せっくキッズファクトリー



CORE VALUE

子ども達と歩む 「産業のまち摂津」！

- EVENT DATA -

開始年 : 2024年
 開催回数 : 1回
 開催期間 : 毎年 10月頃
 参加企業 : 5社 (2024 年)
 来訪者数 : 約 600人 (2024 年)
 主催 : せっくキッズファクトリー実行委員会

FEATURES

次の世代に将来を考えてもらうきっかけを

摂津市はコンパクトな市域に約4,000の事業所が集積しており、製造業や卸・小売業、サービス業等幅広い分野で事業が展開されている。淀川以北の市町では唯一、昼間人口が夜間人口を上回る「産業のまち」だ。そんな摂津市で、キャリア教育(子どもたちの社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力を育てることを通して、自分らしい生き方を実現させるための教育)の推進を応援する企業が中心になってスタートしたのが、せっくキッズファクトリーだ。

子ども達に自身の将来の仕事について考えてもらう機会としてもらうため、楽しみながらもづくりを体験してもらえらるコンテンツが充実している。

FUTURE

大人も子どもも楽しめるイベントの構想

2024年は初めての開催であったため、まずはスモールスタートで無理なく始め、小さな成功を積み重ねることを意識した。その甲斐あって当日は雨天にも関わらず多くの参加者が訪れた。一方、悪天候によりシャトルバスを利用する参加者が想定より多くなるなど、次回に向けての改善も発展に向けたプロセスとしてポジティブに捉え、次年度さらにパワーアップした取組へと進化させるべく参加企業の熱も高まっている。

また、取り組みの名称に「キッズ」と入っていたこともあり、「大人も参加出来るのか?」と問い合わせがあったことも有り難い関心と捉えており、将来的には子ども達だけでなく、地域の大人達にも関わりを創り出したり、より広域地域での展開や多様な参加企業を迎えたイベント開催、市域内外を問わないサポーターとの連携など、様々な参加者に楽しんでもらうための更なる魅力的な取組へと進化を目指す。

INNOVATION

多様なプレイヤーが躍動するオープンファクトリー

2024年当初に、上野鉄工株式会社の上野氏からオープンファクトリーの実施が発案された後、6月には実行委員会が発足。オープンファクトリー実施に向けた1歩を踏み出した。初めての開催ということもあり、どう進めて行くべきか分からない事も多かったが、他地域のオープンファクトリーに参画してきたノウハウを持つ金融機関が、実行委員会をサポートした。

当日は摂津市役所が中心となって工場を巡るためのシャトルバス、シェアサイクルを整備し、スタンプラリーを実施するなど、複数の企業を巡ってもらう・巡りたくなる仕組みを取り入れた。各参加企業では、工場見学だけでなく、ワークショップも併設。楽しみながら各企業ごとに保有する技術や加工機械の特徴に触れることができるよう企画されているほか、エンターテインメントやフード&マルシェの催しも各企業で実施されており、ターゲットである子どもはもちろん、同伴の保護者も一緒に楽しめるコンテンツも準備されるなど、企業が各々に工夫を随所に凝らした取り組みが展開されていた。これらの催しも参加企業が手配し、自社だけで対応できない部分は外部からの応援を呼ぶなど、各社の持つネットワークを生かしたり、これを機会とした新しい関係の構築にも繋がった。

参加した企業からは、イベントの準備を通してチームワークの強化や、コミュニケーションの活性化に繋がったとの声が寄せられているほか、ものづくりの楽しさを伝える機会を得たことで、社員が新しい視点を持つようになり、アイデアの創出にも繋がっているなど、イベント参加を通して、地域・企業内に新しい風が吹いている。

●事務局連絡先

摂津市商工会

〒566-0021 大阪府摂津市南千里丘4-35-3F
 TEL 06-6318-2800

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



せつキッズファクトリー
実行委員長
UENO YOICHI
上野 陽一 氏
上野鉄工株式会社 代表取締役

1988年上野鉄工有限会社（現 上野鉄工株式会社）に入社。製缶業に携わり、鉄を炙り、叩き、曲げ、削り、溶接、金属加工の基礎を学び、物作りの楽しさを深める。失われた30年を脱するべく、2002年にレーザ加工機を導入し業態を変え、製缶業で培ったノウハウを元に金属加工業に事業転換。2004年に社長に就任、事業基盤を築く。「物作りとは」を日々考え、地域に根差した企業、地域貢献を行い、子供達に笑顔のある未来を考える輪を広げたい。
摂津市商工会 工業振興委員長
摂津市鉄工会 副会長

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS



副実行委員長
谷川 幸広 氏
株式会社アサヒ工作所



実行委員
松野 若斗 氏
株式会社カナタ



実行委員
日野 南欧輝 氏
有限会社ワコーメタル



実行委員
岩田 光正 氏
株式会社東洋工作所

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS



摂津市商工会 摂津市産業振興課
白谷 将規 氏 **緒方 聡輔 氏**

摂津市商工会 摂津市産業振興課
宮部 真弓 氏 **福田 大輝 氏**

ともにあゆむ

OTHERS



せつキッズファクトリー
実行委員会
上野鉄工株式会社
株式会社アサヒ工作所
株式会社カナタ
有限会社ワコーメタル
株式会社東洋工作所
摂津市教育委員会
北おおさか信用金庫
尼崎信用金庫
摂津市商工会
摂津市

TRIGGER & STORY

誕生秘話

「産業のまち」摂津市には金属製品等の製造業をはじめ、優れた技術を持つ中小企業も多いが、高度な技術を継承する人材が少ないという悩みがあった。これが今回の取り組みを始める原動力となり、摂津市商工会の工業振興委員会で、仕掛け人となる上野氏がオープンファクトリーの実施を提案。工業振興委員会の委員長でもある上野氏が中心となって鳥飼地域の企業5社が集まり、子ども達に将来を考えるきっかけになってほしいという想いを込めた「せつキッズファクトリー」の誕生に至った。

TOPICS

多様なサポーターとともに盛り上げる

せつキッズファクトリーはキャリア教育をコアとしているところから、取り組みを支えるメンバーにも教育やスポーツの関係者が多い。世界大会で準優勝の経験も持つ星翔高等学校のドローンサッカーチーム「BIRD ONE」は、工場を舞台にドローンサッカー体験会を開催。また、大阪人間科学大学からは、学生がボランティアとして参加し、イベントを支えた。さらに大阪をホームとするプロバスケットボールチーム「大阪エヴェッサ」はフリースローチャレンジを実施するなど、多様なサポーターがイベント当日を盛り上げた。





TOYOOKA OPEN WALK



CORE VALUE

クラフトマンシップが息づく まちをオープンに

- EVENT DATA -

開始年 : 2024年
 開催回数 : 2回
 開催期間 : 9月下旬 12月下旬 (2024年)
 参加企業 : 13社 7店舗 (2024年)
 来訪者数 : 約200人 (2024年)
 主催 : 「オープンファクトリーがつなく、
 まちなか回遊事業」実行委員会

FEATURES

歩いて味わう豊岡のまち

柳行李(やなぎごおり)の生産を起源とする豊岡の鞆産業。そこには、鞆製造、問屋、材料商といった数多くの鞆関係事業者が存在する。この豊岡の地で鞆の小売店等が並ぶ商店街「カバンストリート」を中心に、アルチザン(フランス語で職人)の様々な工房などを歩いて味わうというコンセプトのもと開催されたのが「TOYOOKA OPEN WALK」だ。開催初年度から13社の工場とショップ7店舗が工場・ショップ見学、ものづくり体験ワークショップを実施。各参加企業が子供から大人まで楽しめるオリジナリティ溢れるワークショップを行い、ビジネス向けショールームを一般に公開したことで、来場者から想像以上の高評価を得ている。

FUTURE

オープンファクトリーから始める地域の賑わい

「『オープンファクトリーがつなく、まちなか回遊事業』実行委員会」という名のおり、オープンファクトリーを軸に地域の人々をつなぎ、地域全体の魅力を高め発信していく。将来的に1回目の開催地周辺の駅通りや生田通り、あおぞら市場、公設市場といった商業エリアにおけるイベントの横展開やお菓子や地産地消をテーマにしたフードマルシェなど様々な角度から地域をPR取組を開催し、「また来てみたい!」と思ってもらえる賑わいのある地域を目指している。

●事務局連絡先

「オープンファクトリーがつなく、まちなか回遊事業」実行委員会

〒668-8655 兵庫県豊岡市中央町17-8 (但馬信用金庫 事業支援部内)
 TEL 0796-23-1200

INNOVATION

地域の若者を奮い立たせる火付

豊岡鞆産業の長い歴史の中で、海外製造の流れや人口減少に伴い、地域産業の担い手も不足。全くの未経験者を一人前の鞆職人に育てて送り出すスクールによって多くの卒業生や事業者を輩出してきたものの、地域産業の将来は決して明るいものではなかった。そのような中、これまで単独で実施してきた体験型ワークショップや工場見学にとどまらず、産地一体で、サプライチェーンの川上から川下まで、鞆産業を始めとしたものづくりに携わる多くの関連事業者が工場を開く地域一帯型オープンファクトリーに活路を見出しスタートした。

豊岡のまちをぶらりと歩いて職人達と気軽に対話し、満喫できる「TOYOOKA OPEN WALK」。この取組の背景には、豊岡に住む人に「地元を誇りを持ってもらいたい」、地域内外の人に「もっと豊岡のことを知ってもらいたい、魅力を感じてもらいたい」という想いが存在する。

イベントに参加した地元企業の若手社員から「次のイベント企画は自分たちがやってみよう!」と前向きな声が出て、同年12月に、豊岡市内「あおぞら市場」にて市内の地元住民の協力も得て2回目のイベントを開催した。当日は、1回目の経験を踏まえた鞆のワークショップだけでなく、新聞を使ったトートバック作りや、臼と杵を使った本格的な餅つき大会、職人によるしめ縄作りの体験会など季節を感じるワークショップも同時開催し盛況なイベントとなった。

初のオープンファクトリーからあおぞら市場への参加と、活動の幅を広げているが、まだまだ若者からのアイデアは止まらず、今後も様々なイノベーションに期待したい。

仕掛け人

TREND SETTER



MIYAGAKI TAKEO
宮垣 健生 氏
但馬信用金庫 専務理事

兵庫県豊岡市生まれ。2005年の「カバンストリート」立ち上げ期から商店街活動に参画し、鞆も含めたまちづくりに従事。歴史的資源を活用した観光まちづくりなど、地域資源を活用した面的な取り組みに多数関与。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

実行委員長
浮田 昌宏 氏
浮田産業株式会社
代表取締役社長



副実行委員長
中川 清司 氏
浮田産業株式会社
営業部 マネージャー



副実行委員長
井上 稔喜 氏
但馬信用金庫
事業支援部 部長



取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS



陳 友昱 氏
神戸新聞社
但馬総局 総局長



安井 真梨子 氏
浮田産業株式会社



浮田 裕貴 氏
浮田産業株式会社

ともにあゆむ

OTHERS

豊岡市役所
神戸新聞社 但馬総局

TRIGGER & STORY 誕生秘話

豊岡市には「かばんの神様」と「おかしの神様」が祀られており、アルチザン（職人）のまちとして栄えてきた。後継者不足などから職人・事業者は減少、地域住民でも豊岡市が職人のまちだということを知っている人も少なくなっている。

そこで地域の職人が主役となり地域産業の魅力を発信できる地域一体型オープンファクトリーに着目し、市内外の人に職人がものづくりに込める想いを直接感じてもらうことで、豊岡の鞆、ひいては豊岡が職人の町であることを伝えたいと取組を始めた。

TOPICS

同じ理念をもって活動を

「TOYOOKA OPEN WALK」は開催して間もないイベントであるが、継続して行うために、全員が心掛けていることが3つある。

- ① 実行委員会のスタッフがワクワクドキドキするような挑戦的な企画をすること。
- ② 地域の人々を大切にすること。
- ③ 思いやりをもった対話によりイベントに関係するすべての人から理解と協力を得ること。

今回の取組を鞆だけでなく、地域全体で「地域の良さ」を発信していくためにも、コミュニティとしての3つの心がけを大事にしていく。



もっぺん



CORE VALUE

あのころも、いまも、これからも
ぜんぶ愛しむ”まちびらき”

- EVENT DATA -

開始年 : 2024年
 開催回数 : 1回
 開催期間 : 毎年9～10月頃
 参加企業 : 25社 (2024年)
 来訪者数 : 約650人 (2024年)
 主催 : もっぺん実行委員会

FEATURES

失敗を恐れない「挑戦」と「再起(もっぺん)」の精神

なんべんでも立ち上がり、挑戦する「もう一回」という想いから生まれた『もっぺん』。舞台となるのが『播州織』の産地として名高い兵庫県西脇市・多可町(以下、「西脇・多可」)。ふたつのまちを南北に流れる杉原川や良質な地下水など、水の恵みを地域資源として成長・発展を遂げてきた。しかし、社会情勢の影響などこれらの資源があるにも関わらず地域の活性化が進まない時期もあった。そんな逆境を乗り越え、先駆者の方々が積み重ねてこられた技術や知恵・伝統を大切に、現場を開くことで地域一体となって未来を紡いでいく、そんな想いの込められたオープンファクトリーイベントである。

FUTURE

地域の活性化とさらなる広域連携を目指す場所

日本列島のほぼ中央に位置し、豊かな自然に囲まれた人口約6万人のエリア、西脇・多可。この地域を中心に発展してきた播州織は、国内先染織物の約60%のシェアを占めている。一時は安価な海外製品に押され存続が危ぶまれたが、強みである素材生産を中心とした製品づくりを強化することに加えて、最近では、生地から製品までを市内で一貫して生産できる体制を構築し、最終製品の拡大と西脇・多可のブランド化を図ることで、国内のみならず、海外からも高い評価を受け、世界ブランドの生地にも採択されている。播州織の生地の多くは、そこから衣類メーカーやブランドに渡り製品となるためあまり名が知られていないが、実は身の回りの衣類や雑貨にも多く播州織が使われている。そんな播州織をはじめとする繊維業や農業、製造業、伝統工芸など、古くから多種多様な産業が営まれてきた兵庫県西脇・多可の未来を切り開いていくために生まれた『もっぺん』。今後は地域や業種の枠を越えたイノベーション創出にも目を向ける。

INNOVATION

伝統と革新を融合するコミュニティ

2024年から始まったオープンファクトリーイベント「もっぺん」。二日間の開催期間中には、地域内だけでなく、地域外からも多くの来場があった。参加企業からは、「来場者から「普段見ることができない技術を見て」すごい、カッコいい」と言われてモチベーション向上につながった。」との声もあり、もっぺんが掲げる『五感で体験してもらうことでモノの価値を伝える』を十分に体現することができた。もっぺん出展に向けて社内でも若手チームを組み、集客力につなげる手段を検討した企業もあり、社内での人事交流やインナーブランディング効果にも波及するなど、期待以上の成果に繋がった。

また、西脇・多可の代名詞である播州織に新たな注目も集まった。WWD※への掲載や、全国の繊維産地のキーパーソンが集まるイベント主催者から声がかかるなど、「もっぺん」という入り口があったからこそその広報効果は非常に大きい。

西脇・多可では”織物のまちに、織物の名物市を!”という地元有志の思いから始まった播州織の生地マルシェイベント『播州織産地博覧会(播博-ばんぱく-)』も開催しており、もっぺんの実行委員会と兼任しているメンバーも多い。今後は、チームビルディングという観点から、播州織という共通の地場産業を有する西脇市と多可町が、これまでの常識にとらわれず、相互に連携しながら地域内での機運醸成、地域一帯での”まちびらき”に取り組んでいきたい。

※業界関係者から業界を目指す学生や流行に敏感な方々まで、ファッションに関わるすべての人に向けた週間情報紙

●事務局連絡先

西脇・多可オープンファクトリーもっぺん実行委員会

〒677-0015 兵庫県西脇市西脇990(西脇商工会議所内) info@moppen.jp
 TEL 0795-22-3111(西脇市商工観光課)

仕掛け人

TREND SETTER

もっぺん ディレクター
西脇・多可
万博交流活性化推進協議会
推進ワーキングチーム代表
FUJII MASAHIRO
藤井 昌弘 氏
COME 代表



大学で立体造形分野を学んだ後、デザイン会社にてギャラリーのキュレーション、アート関連商品、イベントなどの企画・制作などを行う。その後、COMEを開業。色々な御菜（おかず）をつなぐお米の様なスタンスで、ものづくりに関するイベントの企画、制作、コーディネートなどを行う。兵庫県西脇市で始めた綿花を育てるプロジェクトを機に同市との関わりを深め、2023年に移住。2024年に西脇・多可オープンファクトリー「もっぺん」の代表となる。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

S
COLLEAGUES

実行委員会コアメンバー

仕掛け人とともに「もっぺん」を作り上げるコアメンバー。“まちびらき”を合言葉に、西脇・多可のものづくりの魅力と文化を発信することで、地域の活性化を目指す。

高橋 直也 氏

大化産業株式会社 専務取締役

学生時代に10年間海外で生活し、帰国後は大阪の繊維商社へ入社。13年の経験を経て、地元で家業でもある大化産業に入社。地元で根付いたものづくりを絶やさぬようにワクワクする織物のアイデアで産地と世界をつなぐ。



竹内 祐太 氏

株式会社ソーイング竹内 役員

1994年生まれ。大学在学中から繊維業界に携わり、メーカーから販売までの一連の流れを経験。現在は家業の繊維工業（株）ソーイング竹内にて、営業・クリエイティブディレクターを務める。



取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

もっぺん実行委員会



西脇市商工観光課／西脇商工会議所／多可町商工観光課／多可町商工会／公益財団法人北播磨地場産業開発機構

ともにあゆむ

S
OTHERS

もっぺん2024参加事業者（25事業者）

植山織物／ウニスガ印刷／大城戸織布／太田工務店／岡治織物／川上織物／郷土資料館／書家ごとうみのり／杉原紙研究所／セントラルフットウェアサービス／ソーイング竹内／大化産業／玉木新雄／土づくりセンター「夢あぐり西脇」／七代目藤岡農場／西日本コクボ／橋本裕司織布／播／播州織工業協同組合／兵庫県立工業技術センター繊維工業技術支援センター／藤祐織維／堀井鞆製作所／丸萬／山本鉄工／リナビス／
◀協力▶ハローワーク西脇

TRIGGER & STORY

誕生秘話

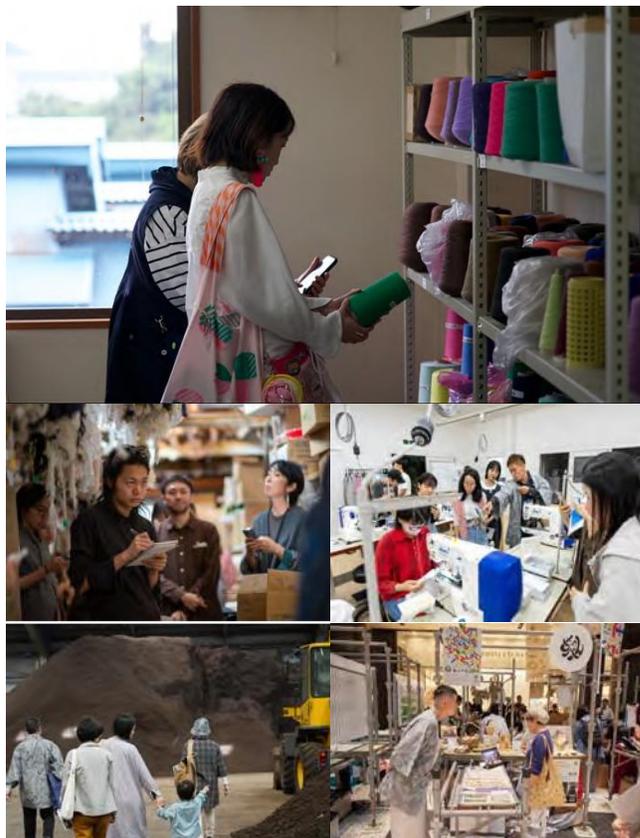
もっぺん代表の藤井氏が西脇市と関わりはじめたのは、約10年前。友人に誘われて綿花栽培を行うようになったことがきっかけ。その後、2023年に京都から西脇市へ移住。西脇市が近畿経済産業局と共催した「オープンファクトリーフォーラム」で様々な関係者と交流する機会を経て、この地が培ってきた伝統や産業を未来へ紡いでいくため、かねてから必要性を感じていた「オープンファクトリーイベント」を立ち上げることを決意。取り組みを通じて地域に注目が集まることで、移住者や観光客を増やし、地域活性化につながる良い循環ができればと、「もっぺん」という新しいコミュニティを誕生させた。

TOPICS

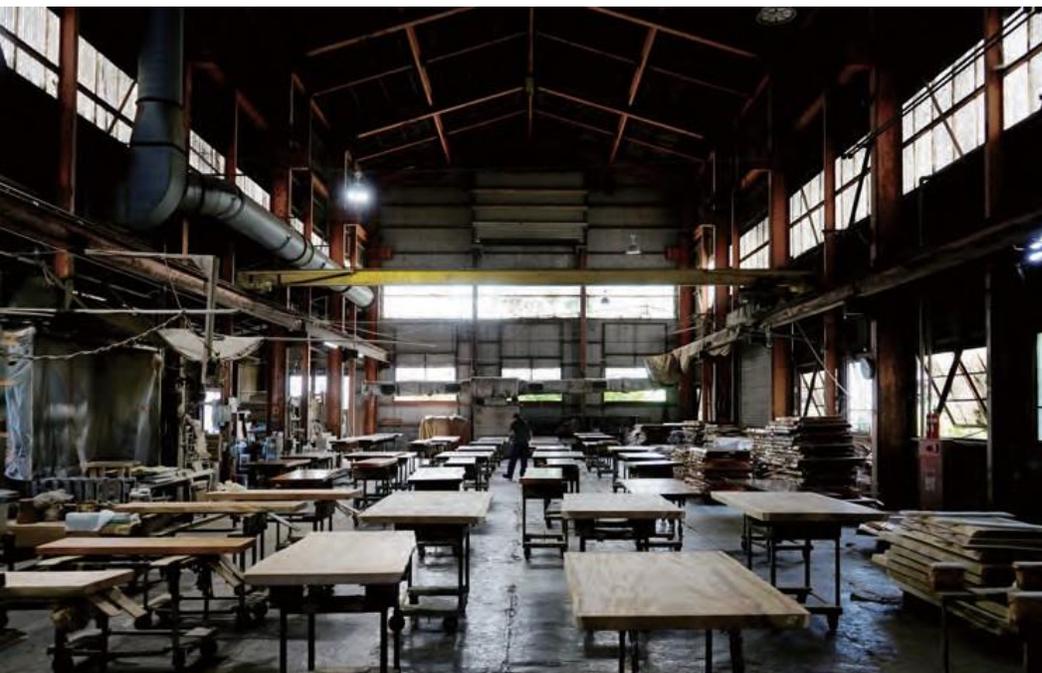
こたつ会議内マルシェへの出店

グランフロント大阪で定期的開催されている「こたつ会議」。ここ2022年からオープンファクトリーをテーマに全国各地の地域一体型オープンファクトリーが集まっていたが、「次世代のモノづくり」をテーマに開催された2024年度には「もっぺん」にも声が掛かった。

先輩オープンファクトリーたちと肩を並べ、西脇・多可の魅力を発信することで、「もっぺん」の認知度を高め、他地域との交流もたくさん生まれたことから、次年度以降へ他地域のナレッジを活かした発展が期待される。



来て見てみい、とくしま。



CORE VALUE

徳島の木工に次なる一步を

- EVENT DATA -

開始年 : 2023年
 開催回数 : 2回
 開催期間 : 毎年11月頃
 参加企業 : 9社 (2024年)
 来訪者数 : 延べ人数約1,000人 (2024年)
 トークイベント、レセプションを含む
 主催 : 来て見てみい、とくしま。実行委員会

FEATURES

船大工の精練された技術が地場産業の土台に

「来て見てみい、とくしま。」は、徳島で生まれたものづくりの現場を開放するイベント。そのネーミングは、阿波弁の「一度は来てみれば」「見て、ためてみれば」からとったもので、徳島に来てものづくりの現場をみて作り手の想いを感じてほしいという願いが込められている。

家具で有名な徳島は、遡ること室町時代に既に木材加工品が作られていた記録が存在する。安土桃山時代には、蜂巣賀氏が水軍基地を置き、200名ほどの船大工を住まわせ、以降、木材の加工技術が磨かれてきた。船大工で培われた技術は、明治の世になっても家具や筆筒、計箱、鏡台、仏壇作りなどに生かされながら、現在の徳島の地場産業の土台となってきた。近年のライフスタイル・婚礼慣習の変化、大手の安価な代替品など時代の流れの中で、200社ほど存在していた徳島家具メーカーは、20社ほどに縮小。危機感を持った一部の事業者が、2000年以降、デザイナーと共に悪戦苦闘しながら新たな木工のあり方・姿・形に果敢に挑戦。2023年からはオープンファクトリーを通し、更に輪を広げながら、地域の産業のこれからを育てている。

FUTURE

作り手の一步、使い手の一步、関係者の一步

過去、徳島においても家具の祭典が開催されていた。その当時、空港に降り立った全国各地のバイヤーに地元メーカーが殺到し、自社への案内をするほど盛り上がっていた時代もあったという。それをもう一度この徳島で、という想いを胸に、新たな参加事業者(作り手)や参加者(使い手・関係者)を巻き込みながら裾野を広げ、関係人口を増やすことで、ひいては日本における木工を中心とした産業全体の活性化を目指していく。

INNOVATION

見てみい、聞いてみい、会ってみい。試してみい。

2023年に開催した「来て見てみい、とくしま。」(2025年現在の「来て見てみい、とくしま」へ名称変更)は、初年度2日間の開催で、参加企業9社であったものが、2024年は、とくしま伝統産業振興協会他37社が協賛し、開催期間を5日間に延ばすなど、着実に裾野を広げている。本イベントは、見てみい(オープンファクトリー)、聞いてみい(トークイベント)・会ってみい(レセプション)から構成される。

「見てみい」では、徳島の木工メーカー9社がものづくりの現場を公開。突板張りに手彫りの彫刻、繊細な組子に厚みのある一枚板。曲木から成形合板まで、多種多様な素材や技術が長い年月をかけて集積している。これら徳島ならではの匠の技を、実際の現場でじっくりとみることができる。「聞いてみい・会ってみい(トークイベント・レセプション)」では、水辺の倉庫街万代中央ふ頭のカフェ(BANDAICAFE)を舞台に、木工メーカーとデザイナーによるトークイベントが開催され、参加メーカーの職人やデザイナーなど、ものづくりに携わる人たちが集結し、徳島産の食材を使用した料理やスイーツ、そしてドリンクとともに集まった人たちと交流を深める場が提供されている。レセプションは、プロ志向が強い方を対象に実施される。現場と交流機会の相乗効果によって、新たな出会いや学び、触発が生まれ、この土地ならではのマインド(試してみい)によって、数々のイノベーションが生み出されつつある。

●事務局連絡先

来て見てみい、とくしま。実行委員会

〒877-0005 徳島県徳島市津田海岸町5-75 椅子徳製作所内
 TEL 088-663-0018

ONE TEAM

仕掛け人

SETTER

来て見てみい、とくしま。実行委員会委員長

SAGIIKE HIROYUKI
鷺池 博行 氏

有限会社 椅子徳製作所代表取締役

徳島市生まれ。1986年大阪デザイナー専門学校卒業後、椅子徳製作所入社。専務取締役を経て、2009年代表取締役就任。



来て見てみい、とくしま。実行委員会事務局長

AKIZUKI OSAMU
秋月 修 氏

秋月木工 有限会社代表取締役

1965年徳島生まれ。
1988年富士ファニチア（株）入社。
1993年秋月木工（有）入社。
2000年代表取締役就任。



TREND

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

COLLEADERS

来て見てみい、とくしま。プロデューサー

村澤 一晃 氏

ムラサワデザイン
股旅デザイナー



来て見てみい、とくしま。プロデューサー

山田 佳一朗 氏

KAICHIDESIGN



取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS



運営サポート

布川 知徳 氏

富士ファニチア 代表取締役社長



広報ディレクター

横田 茂 氏

Afterhours

ともにあゆむ

OTHERS

徳島県、徳島商工会議所
徳島伝統産業振興協会他37社
徳島県木竹工業協同組合連合会



TRIGGER & STORY

誕生秘話

もともと家具の名産地として名を馳せた徳島では、2000年以降、依然として高い技術はあるものの、流通先であるいわゆる家具屋頼みの状況が続いていた。積極的にデザイナーと組んでいた秋月氏や鷺池氏は、業界の今後に危機感を覚えつつ、家具屋の変化のスピードが時代に追いつけていないことも肌で感じていた。試行錯誤を重ねた中で、新たな製品として一つ抜け出したのが鏡台に付随する「椅子」であった。以降、数多くの東京等への出展、他の家具産地の見学などを通し、改めて徳島に見に来てもらうことの重要性（出向くことから迎えることへの発想の転換）を強く感じ、まずは2社でもよいので始めてみようという周辺の事業者へお声をかけたことが、結果的に今の「来て見てみい、とくしま。」につながっている。

TOPICS

刺激が連鎖する

木工の産地・徳島には、無垢の木を曲げる曲木や、木を薄くスライスした突板を貼ったり曲げたりする技術、欄間を作る組木や遊山箱に代表される箱もの技術だけでなく、椅子張りや塗装などの仕上げまで木工に関係する多種多様な素材や技術が集積している。その一つ一つを知っていたために昨年の第二回開催では、「ワークショップ（木工の体験）」や「展示」で、製品の魅力を伝える機会を増やした。また日頃協力関係にある企業様にお声がけし、38社より「協賛」を得ることで関係人口を増やし、イベントの認知と集客に繋げている。このような取り組みは、産地内だけでなく、他産地への触発をもたらしている。「来て見てみい、とくしま。」は、木工産地としての更なるブランド化と、他産地との交流を通じた相互作用を目指している。



諫早工場博-ISAHAYA KOBA HAKU-



CORE VALUE

モノづくりは、人づくり - 工場新発見 -

- EVENT DATA -

開始年 : 2023年
 開催回数 : 2回
 開催期間 : 毎年11月頃
 参加企業 : 6社 (2024年)
 来訪者数 : 約2,000人 (2024年)
 主催 : 諫早工場博実行委員会

FEATURES

未来の地域づくりを工場から

中心となって取り組む長崎金属工業協同組合は造船・プラント関係の仕事を数多く手がけながら地域経済の発展に寄与してきた。一方で若者の他県への流出や製造業離れによる人口減少で働き手不足など様々な課題に直面。培われてきた技術とものづくりの楽しさを伝え、未来の地域づくりに貢献すべく、普段は見ることの出来なかった稼働するものづくりの現場をリアルに見学できるツアーや、工場の技術を体験できるワークショップ、県内でも有名なマルシェの同時開催など、地域の魅力が詰まった「諫早工場博」を立ち上げた。

FUTURE

地域で創り・地域で育てるコミュニティ

「地域の基幹産業であるものづくりの現場は、格好いい。」

そうした意識を、外（製造現場に携わっていない方）からの声を通じて実感してもらおうとブランディングされているのが、諫早工場博。

見学者から飛び交う「すごい！」という声が、再び現場の職人達の心を焼きつけ、より格好良く見せるための工夫を現場がさらに考え、自立的に成長していく「地域で作るコミュニティ」となっている。

格好いい現場を誇る職人と、そこに憧れる地域の人々が交流する地域の新しい「博覧会」として、特に近い働き手となる高校生にも訴求できるよう地域と共に育つ取組となっていくことを目指していく。

INNOVATION

外の声で触発される現場の誇り

取組を始めて感じる最初の変化は「参加している企業の発言」であった。

開催前こそ、率先して取り組みたい企業、付き合ってくれている企業など、企業ごとに温度感は様々。しかし開催中に企業から出てくる声は「次回はココをこうしておいた方が・・・」といった改善や新しい提案ばかり。諫早工場博という事業が、「自分たちが創っているコミュニティ」という概念に昇華されている証左かもしれない。

また会場となった「貝津工業団地」は立地する企業や取引のある企業、運送に関わる業者等を除いた地域の方々にとっては、見えないものづくりの現場であったらう。だが、この諫早工場博を通して「何を生み出している場なのかを伝える」ことで、徐々に地域理解が進み始め、本工場博の目的である地場企業の存在をアピール出来た。特に同時開催で協力してくれている「ワイヤーマルシェ」は県内ではSNSで子連れの家族に大きな発信力を持つ運営団体が実施しており、「工場」に関する理解を促進する大きな推進力になっている。

そして、地域の課題とも言える就職面においては即効果が生まれているわけではないが、来場者に社員の家族が多く訪れ、現場に対する格好良さを伝えられたこともあってか、参加企業における離職率低下に繋がっている肌感も共有されている。

今後は長崎県内を越えて、九州他地域の取組、そして全国の事例とも互いに触発しながら、「工場は格好いい」という切り口で更なる発展を目指す。

●事務局連絡先

諫早工場博実行委員会

事務局：長崎県金属工業協同組合 担当：井上・山下
 TEL 0957-26-1900 (代表)

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



有限会社細木製作所
代表取締役
SEKIZAWA YUKO
雪澤 佑子 氏



株式会社プラス
代表取締役社長
SAKAI YUJI
酒井 裕次 氏

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

長崎金属工業協同組合
事務局長

井上 康晴 氏



長崎金属工業協同組合
課長

山下 直美 氏



取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS



長崎金属工業協同組合
理事長

光武 直哉 氏

ともにあゆむ

OTHERS

- 有限会社秀工社 代表取締役 光武 直哉 氏
- 株式会社新長崎製作所 代表取締役 梶原 正雄 氏
- 有限会社細木製作所 代表取締役 雪澤 佑子 氏
- 長菱ハイテック株式会社 代表取締役 水口 一人 氏
- 株式会社峯陽 代表取締役 原田 功 氏
- 有田工業株式会社 代表取締役 有田 一彌 氏

TRIGGER & STORY

誕生秘話

本事業のデザインディレクションを行う株式会社プラスは、広島県尾道市で「造船鉄工祭」を牽引しており、その評判を聞きつけた長崎県金属工業組合が同社に相談し、企画検討がスタート。

取組を進める中で、有限会社細木製作所の代表を始め、組合内の熱量を持った経営者達に火が付き、企業みずから資金も拠出し、地域のため、ひいては自分たちのためにもなる地域共栄の取組としてスタートした。

TOPICS

やってみたからこそその新しい御縁

取組を知ってくれた九州経済産業局との出会いから、九州オープンファクトリーフォーラムへの登壇が決定。

これまで、九州エリア内での他地域のオープンファクトリーとの交流はあまり無かったが、互いの取組を伝え合い、触発し合う機会とすることで、次年度の取組への学びの場となることを期待している。

また、実施後には他の工業組合からも同様に取組みたいので参考としたいといった問い合わせが入ったり、当日は地域の民放が放送してくれたりと、「やってみたからこそ」の新しい御縁がたくさん生まれたことは、嬉しい驚きだ。





日田ものづくり探検隊



CORE VALUE

自然と共生する産業の継承と発展

- EVENT DATA -

開始年 : 2019年
 開催回数 : 6回
 開催期間 : 毎年10月頃
 参加企業 : 30社 (2024年)
 来訪者数 : 約800人 (2024年)
 主催 : 一般社団法人日田県産業振興会

FEATURES

農業から服飾まで、暮らしの用品がそろう産地

日田市では、一つの産業が突出した町ではないものの、人間の営みに欠かすことのできない衣食住の生活必需品が全て作られている。人の暮らしに寄り添い必要なものを作るという純粋なものづくり文化は、「民芸」の精神に近い独自性を持つ。古くからは、水力を利用した小鹿田焼の唐臼や林業における循環型資源の活用、近代では木質バイオマス発電など自然エネルギーの活用など、地域環境や資源をうまく活かした産業が栄えており、本取組では「体験を通して次世代を担う人材の育成と確保に繋げる」ことを目指している。

FUTURE

多種多様な職人に触れ、未来の職人を産む

農業から服飾まで衣食住のものづくりが行われている全国的にも珍しい町である特徴を活かし、多種多様な職人に触れる「工場見学」「ものづくり体験」「体験宿泊」「商品開発体験」「職人直売会」を実施する。それぞれの角度から職人の「想い」や「声」に触れ、日田のものづくり文化を培ってきた歴史を知ること、自らもその「日田の歴史の紡ぎ手になりたい」と想ってもらうことはもちろん、見せる側も「紡ぎ手になりたい」と想ってもらえるように職人自らも仕事の誇りを育む機会として若い職人達のモチベーション向上に繋げる取組となるよう、企画を進化させ続ける。

●事務局連絡先

一般社団法人日田県産業振興会

〒877-0005 大分県日田市豆田町7番20号
 TEL 050-1048-7757 (Areas代行)

INNOVATION

にじみ出し広げる「日田らしさ」

開始すぐに効果が得られたわけではなかったが、取組を継続することで参加する企業の社員の意識に変化が現れはじめた。BtoBの業務が多い企業にとってはイベントを通じてエンドユーザーの声を直接聞けることで、自社の価値を再発見することに繋がったり、普段当たり前に作業していることに対して来場者が驚きの声を上げてくれることで、社員が働くことに誇りを持つ機会となっている。また、実際にイベントを通して就職する人も現れた。さらには、普段とは違った来訪者が来るということで、社員が率先して工場を綺麗にしたり、身なりを整えたりとインナーブランディング効果が「ものづくり探検隊」の最たる効果と感じている。

そして、取組を継続することで「日田ものづくり探検隊」の名前が徐々にではあるが関わった方々、来場者を通してじわじわと広がることで「ものづくり日田の町」を知ってもらうことに繋がりはじめた。近年では県がものづくりの歴史調査のための補助金を支援してくれて、「日田産業史展」を開催できたことも取組を通じた効果なのかもしれない。他にも県と同会とで2023年より3年計画で「日田産業活性化事業」が始まり、異業種連携による商品開発など以前より念願だった事業にも繋がった。これもオープンファクトリーによる異業種連携がすでに行われているという下地が形成されていたということが要因かと考えられる。

今後は九州他地域の取組、そして全国の事例とも互いに触れ合いながら、「日田らしさ」を体感できる地域一体の取組として成長し、産業観光やインバウンドの取組にも繋げていきたい。

仕掛け人

TREND
SETTER



一般社団法人日田県産業振興会
代表理事

SENZAKI MASAHIKO

仙崎 雅彦 氏

hi-count 代表

TREND
SETTER

北九州出身。1999年日田のソファを中心としたホームユース家具メーカーに就職、その後コントラクト家具メーカーを経て独立。企画デザインの仕事をしながら2008年に観光地にてショップをオープン。家具だけでなく生活雑貨や地域材を使用した商品などを販売しつつ日田の産業周知に繋げている。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

COLLEADERS

副実行委員長

矢羽田 匡裕 氏

合同会社 ウッドアート楽 社長



副実行委員長

中村 広樹 氏

ベストリビング株式会社 代表



取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

日田県産業振興会役員



梶原 和人 氏
梶原食品 社長



高村 真志 氏
高村木材 社長



森 真一郎 氏
力峰彫刻 社長



用松 太一 氏
日田市観光協会

ともにあゆむ

OTHERS



協力：日田市

TRIGGER & STORY

誕生秘話

日田家具工業会が地域産業とともに発展する未来のものづくりの姿を表現した IFFT2018に出展後、凱旋イベントとして協力頂いた地元企業を巡る工場見学ツアーを2018年に行ったことが起源。元々、別途開催されていた日田市工業連合会が3年に1度の「工業展2019」が10回目を迎える節目ということもあり、日田家具工業会が工場見学ツアーを提案。当イベント内で「第1回 日田ものづくり探検隊」としてオープンファクトリーを開催したことが第一回目の開催となる。第2回目以降は独立した組織により毎年開催を目指すこととなり、現在の実行委員会方式での開催へと繋がっている。

TOPICS

日田異業種コラボ

「なかしまおやさい」が育てたスイカを使い「日田とらや」が和菓子を作る日田異業種コラボ商品の開発を「日田ものづくり探検隊」の活動の一環として実施。試作段階の商品を一般参加者からご意見を伺い、一緒に検討し、商品化をめざす事業として注目を集め、多くの参加者から示唆に富んだアイデアをいただくことが出来た。



II. その他 各地の取組について

本紙においては「はじめに」に掲載しているとおり、3つの要件を満たすものを「地域一体型オープンファクトリー」として紹介してきたが、取組を進める中で、地域や企業が群となって推進するイノベーティブな取組も発掘してきた。次ページ以降においては、そうした取組の中から、以下1事例を紹介する。

八王子オープンファクトリー（東京都八王子市）

八王子オープンファクトリー



仕掛け人

TREND
SETTER



FUJII YASUTAKA

藤 泰隆 氏

日本コンベンションサービス
株式会社 (JCS)
ソーシャル・イノベーション推進室室長

国際会議やカンファレンス、展示会やまちづくりなど幅広いMICE事業を手掛けるJCSで産業振興支援や地域活性化事業を担当。

事業を通じて全国の工場等を訪問しものづくりに携わる企業・現場を支援。オープンファクトリーが企業や地域にもたらす効果に惹かれ、自身も参加者として全国各地のオープンファクトリーを訪問。

Destinationとしての八王子市のポテンシャルを踏まえ、産業振興で協力関係にあった同市と本事業を立ち上げた。

各地域の取り組み好事例やネットワークを織り交ぜながらよりその地域らしい事業への発展を目指し奔走中！

CORE VALUE

ものづくりを すみずみまで味わいつくす

FEATURES

伝統と革新が交差する体験

高尾山がある街、八王子市は桑都と呼ばれ、古くから織物を地場産業とする産業都市として栄えてきた。さらに、日本経済の発展のなかで、高度な技術を持つ多くの製造業が集まり多様な産業が集積する地域へと発展していった。

また、八王子は産業の他に、東京都唯一の日本遺産や東京都内最大級の農業生産高を誇るなど多様な魅力を持っている。

行政や民間など多様なプレイヤーが協力することで魅力を磨き上げ『八王子ならではの』の体験を市内外に発信する。その取組の一つとして2023年から

「八王子オープンファクトリー」を開催した。同取組では、伝統産業から先端技術を持つ八王子市内の企業を広く認知してもらう目的で開催される体験型イベントとなっている。

FUTURE

新たな観光資源の発掘・活用へ

地域の企業を市内外に知ってもらい、産業観光として誘客につなげる目的ではじめた本事業。繊維工業や製造業といった地域の魅力の発信につながる産業の存在もあり、市外から人を誘客できる魅力がある事を感じ取れた。

実際、東京観光財団が実施するファムトリップに選定された企業も出てきており、今後もテクニカルビジットなど幅広い用途で、市外から産業に興味をもって来訪する機会づくりを行っていきたい。

- EVENT DATA -

開始年 : 2023年	参加企業 : 26社 (2024年)
開催回数 : 2回	来訪者数 : 約2,500人 (2024年)
開催期間 : 毎年11月頃	主催 : 八王子市 日本コンベンションサービス株式会社

INNOVATION

広がる共創の輪

八王子の後継者育成塾（はちおうじ未来塾）卒業生の企業を中核に、幅広い業種のものづくり企業が集まり初開催された八王子オープンファクトリー。2年目には、初年度の成果もあり企業同士の声かけなどで26社が集まった。

2年目の今回、より魅力ある取組とするため、参加企業が選んだ地域の飲食店紹介企画や、地元企業によるイベントマップデザインなどものづくり企業だけでなく、地域の異業種も広く巻き込んだイベントとなってきた。また、インバウンドにも対応ができるよう、ワークショップの通訳サポートとして地域の大学生（法政大学飯野厚教授ゼミ）がボランティア参加するなど学園都市としての強みも生かしながら着実に関係者を増やしている。

交流の視点では、墨田区の地域一体型オープンファクトリー「スミファ」の中心人物でもある株式会社浜野製作所の浜野慶一氏が同取組のアドバイザーを担っており、企業間の連携だけでなく他地域のオープンファクトリーとの連携も期待でき、異業種の交流が生み出す今までにないコラボ企画なども今後創出していきたいと考えている。

さらに、八王子市に2022年に開業した「東京たま未来メッセ」は東京都における産業の振興を図るための産業交流施設と位置づけられており、オープンファクトリーとの相乗効果を期待したい。

●事務局連絡先

八王子市役所

〒192-8501 東京都八王子市元本郷町3-24-1
TEL 042-620-7378